

E52 中部横断自動車道（新清水 JCT～富沢 IC、下部温泉早川 IC～六郷 IC）が開通！〈道路の概要と効果について〉

国土交通省 関東地方整備局 甲府河川国道事務所 計画課

1. はじめに

平成 31 年 3 月 10 日（日）に、E52 中部横断自動車道（新清水 JCT～富沢 IC、下部温泉早川 IC～六郷 IC）の約 29km が開通しました。この開通にあたり、静岡県側、山梨県側で開通式を執り行い、地元の方々など、各々約 400 名に出席いただきました。ご来賓の方々からは、「県外との交流が、人・モノとも大いに拡大することが期待され、交流が更に活発になる。」「まちづくり、地域づくりに取り組み、開通の効果を最大限発揮させていく。」などのお言葉をいただきました。その後、テープカット、くす玉開きが地元の演奏で華を添えていただき執り行われました。また、開通の 1 週間前には、地元主催によるウォーキングイベントが行われ、約 2,000 名の多くの方々に参加され、期待と喜びの声をいただきました。



写真 1 開通式テープカット、くす玉開きの様子



写真 2 開通前ウォーキングの様子

2. 路線の概要

2.1 中部横断自動車道の概要

中部横断自動車道は、静岡県静岡市を起点とし、山梨県甲斐市を經由して長野県小諸市に至る延長 132km の高速自動車国道です。新東名高速道路、中央自動車道、上信越自動車道に南北で接続し、日本海及び太平洋の臨海地域と山梨・長野県との連携・交流が促進されるとともに、産業・経済の発展や観光交流の拡大などに寄与する道路です。このうち、今年 3 月 10 日に開通した約 29km を含めて、約 77km 約 6 割が開通し、新東名高速道路から中央自動車道間については、来年（2020 年）内に全線開通する見込みです。

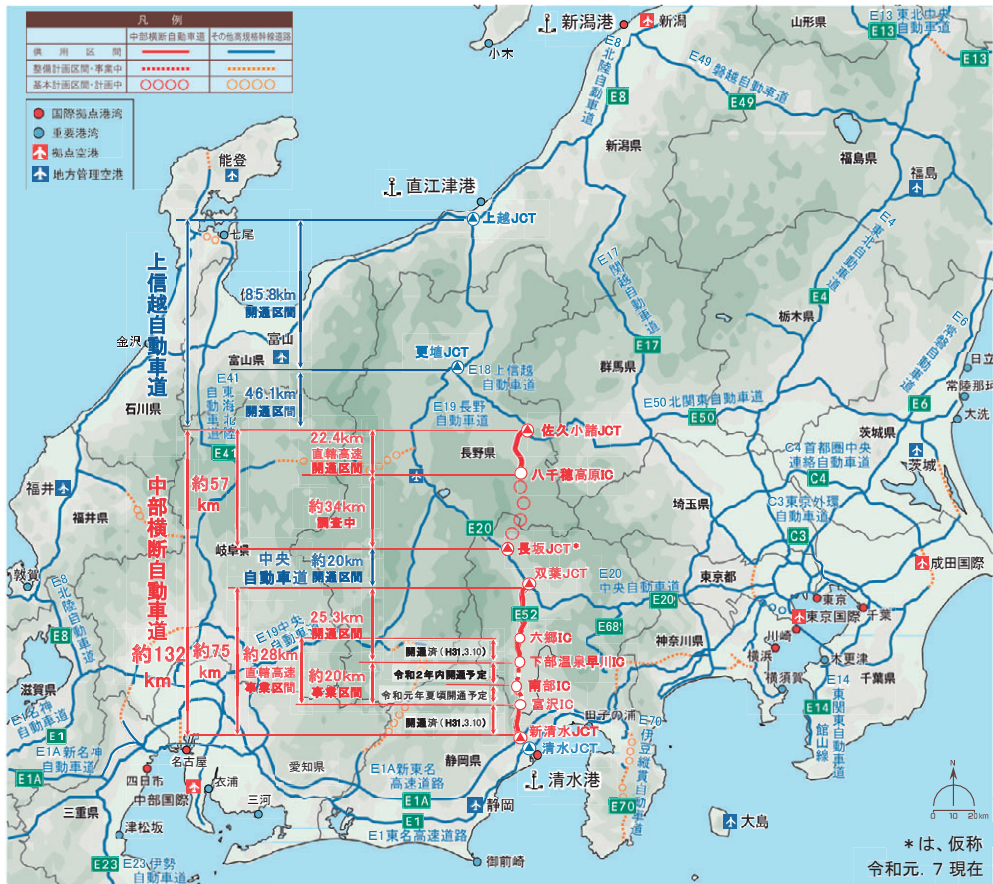


図1 中部横断自動車道の概要

2.2 今回開通区間の概要

中部横断自動車道の新東名高速道路から中央自動車道間約74kmの新清水JCT～双葉JCTについて、平成29年までに六郷IC～双葉JCT間約25kmがNEXCO中日本の施行により開通し、残る国土交通省が施行している富沢IC～六郷IC間約28kmのうち下部温泉早川IC～六郷IC間約8kmと、NEXCO中日本が施行している新清水JCT～富沢IC間約21kmが今年3月10日(日)に開通しました。



図2 路線概要図

2.3 道路の構造

中部横断自動車道（新清水JCT～六郷IC）は、早期に効果を発現するため、当面2車線で整備を進めています。当該区間は富士川沿いの急峻な山々を通過する道路で、トンネルが5割強、橋梁が約2割を占める構造物の多い道路となっています。

■ 路線名	中部横断自動車道(新清水～六郷)
■ 区間	自静岡県静岡市 至)山梨県西八代郡市川三郷町
■ 延長	49.0km
■ 車線名	4車線(当面2車線で整備)
■ 構造規格	第1種3級
■ 設計速度	80km/h
■ 幅員	20.5m(当面10.5mで整備)

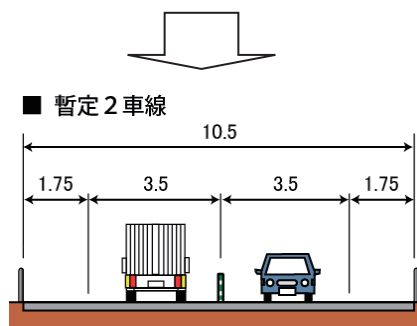
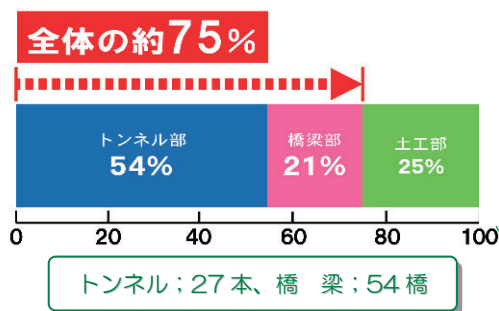
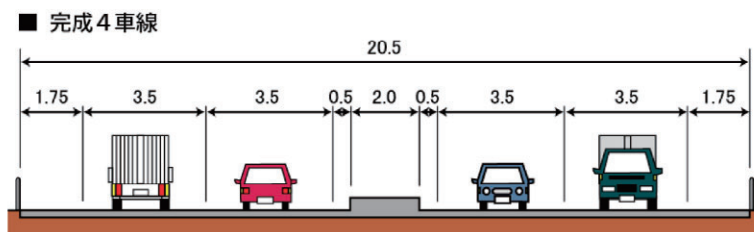


図3 道路の構造

3. 中部横断自動車道の整備効果

3.1 所要時間の短縮と開通後の交通状況

中部横断自動車道の新東名高速道路から中央自動車道間について、今回の開通により、山梨県から静岡県の県庁間の所要時間が約30分短縮され、来年2020年内の開通により、更に30分短縮すると見込まれています。この時間短縮により、物流の効率化、産業の活性化、観光交流の拡大による地域雇用の創出など、地域経済の活性化も期待されます。

今回の開通約1ヶ月後交通量については、中部横断自動車道の既に開通している六郷ICから増穂ICの交通量が約8割増加するとともに、並行する国道52号の交通量が約3割減少し、中部横断自動車道に交通が転換され、国道52号の朝夕の渋滞緩和や、中部横断自動車道と国道52号の断面交通量が増えるなど、交通状況が変化してきています。

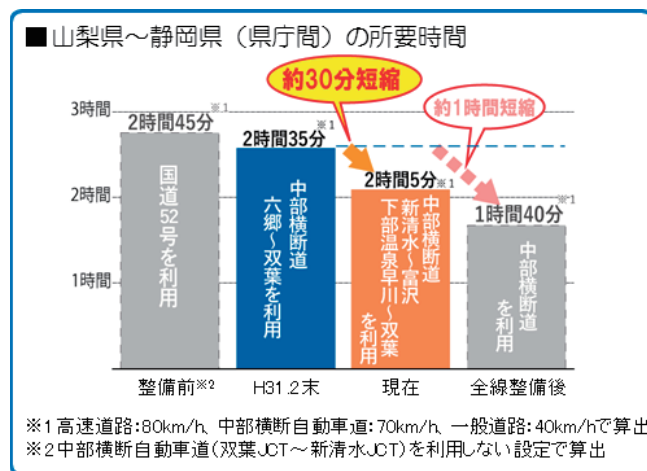


図4 移動時間の短縮効果

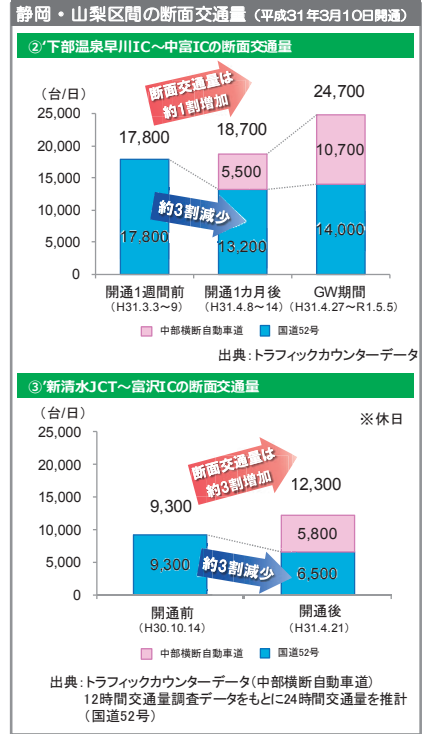
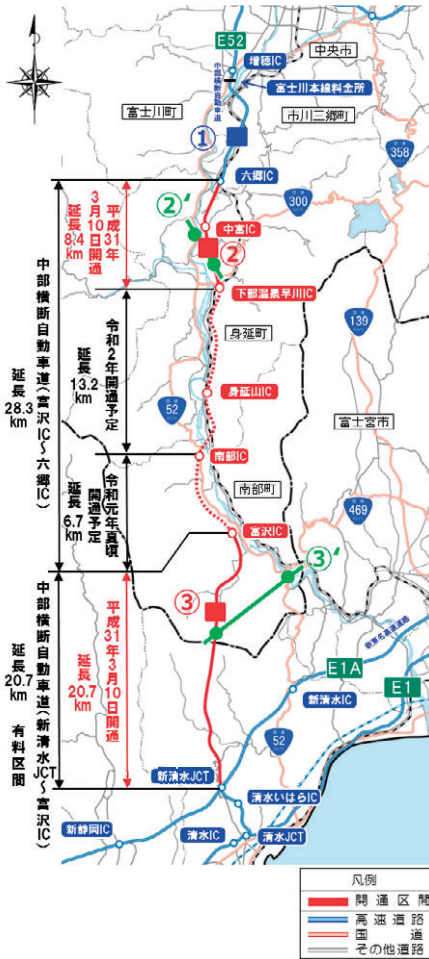
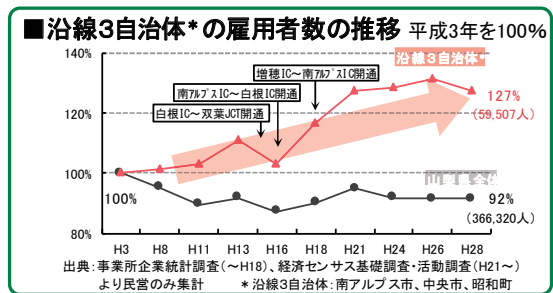
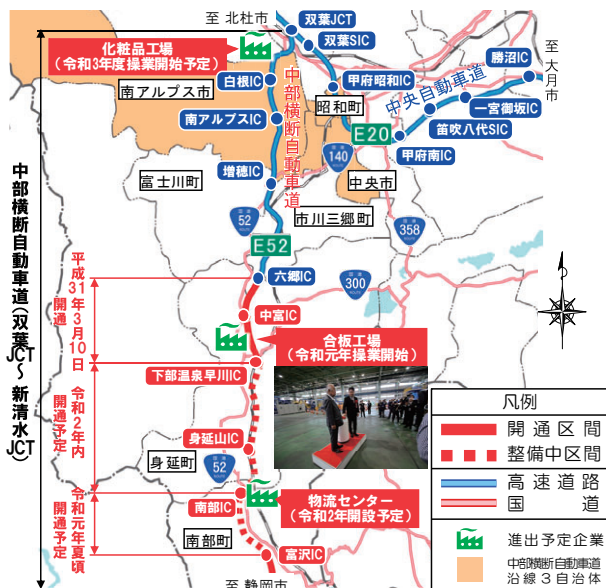


図5 開通後の交通量

3.2 物流の効率化と産業の活性化

中部横断自動車道の整備による所要時間短縮により、輸送が効率化し、沿線に企業立地が更に促進され、地域の雇用が創出されるなど産業の活性化が発現しています。また、農産物の販路について、生産量全国1位の山梨県産のぶどうやももは、現在の主要な出荷先は東京ですが、中部横断自動車道の開通により、東海地域への販路拡大も期待されます。



進出予定企業の声

【化粧品会社 化粧品工場建設】(令和3年度操業開始予定)
・従業員300~400人のうち8~9割について、現地雇用を見込む。

【合板工場建設】(令和元年操業開始)
・工場の従業員約40人のうち30人を地元から雇用。

【物流会社 物流センター建設】(令和2年度開設予定)
・従業員は、周辺町内から新規雇用(10名~40名)を予定。

出典:企業ヒアリング(H31.1~R1.5)

図6 企業立地、地域雇用創出などの状況

3.3 観光交流の拡大

今回の開通にあわせ、新たな観光ツアーが企画されるなど、沿線地域の観光交流が拡大し始めています。中部横断自動車道沿線の山梨県峡南地域では、このゴールデンウィーク期間中の観光入込客数が対前年比で約3割増加するなど、観光交流が拡大しています。

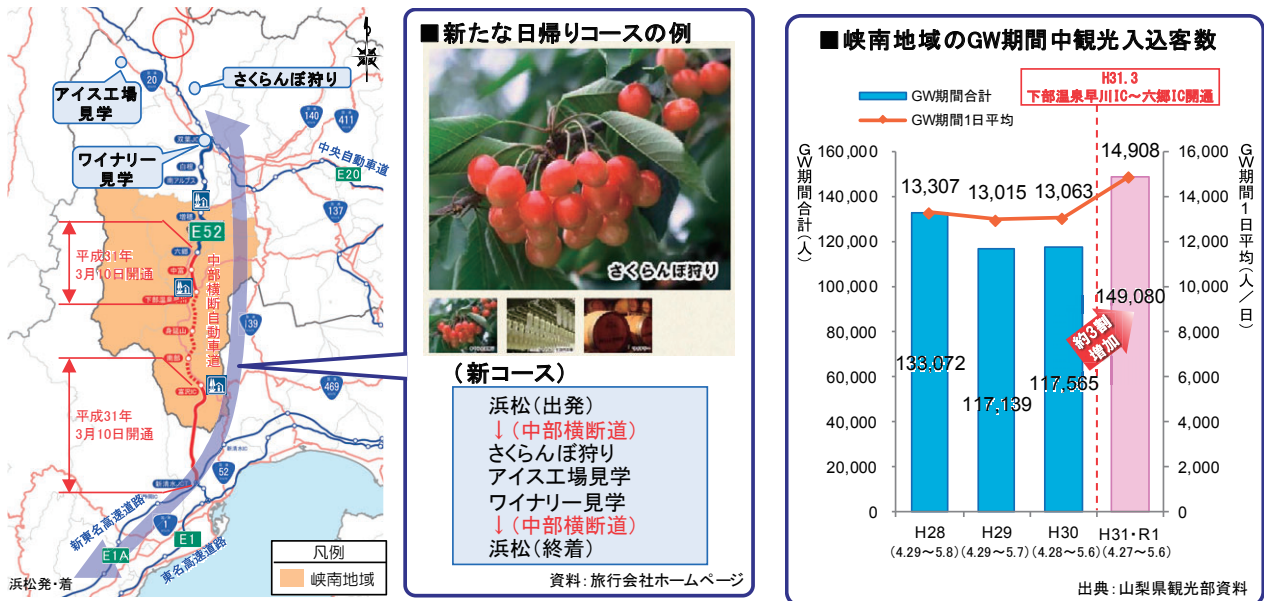


図7 令和元年ゴールデンウィークの峡南地域の観光入り込み客数など

3.4 安全、安心の確保 (国道52号の異常気象時等における代替路の確保)

中部横断自動車道の整備により、新東名高速道路、中央自動車道、上信越自動車道の3本の高規格幹線道路と結ばれることで、首都圏における環状ネットワークが形成され、首都圏防災時の代替路としても機能します。特に首都圏直下型地震や東海地震等の災害時は、既存の新東名高速道路を利用するルートに環状ネットワークを利用するルートが加わることで、中京圏と首都圏間の災害復旧や被災地支援の連携が強化されます。

また、中部横断自動車道に並行する国道52号は、地形や地質等の特性から大雨などの際には通行止めとなり孤立する集落が発生することから、代替路の確保が急務となっており、中部横断自動車道が整備されることで、孤立集落の解消が期待されます。

この5月には、大雨により、国道52号の一部(万沢地区)が通行止めとなり、その際、この3月に開通した中部横断自動車道が代替路となり、物流や地域の生活への影響の軽減がなされたところです。未開通区間の開通により、残る事前通行規制区間の代替路として機能させ、孤立集落の解消を図ってまいります。

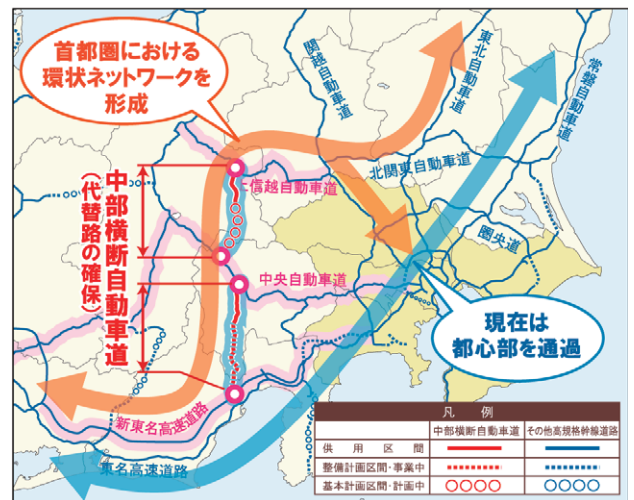


図8 代替路の確保 (高速道路ネットワーク)

多発する国道52号の通行止め

■国道52号の雨による通行規制履歴(H23年度～H30年度)

規制区間名	規制回数	のべ規制時間
万沢	7回	60時間10分
古屋敷	7回	57時間00分

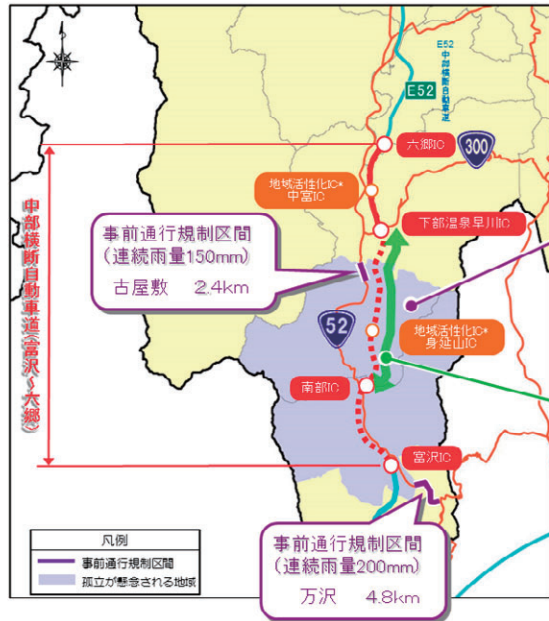
出典：甲府河川国道事務所資料



○令和元年5月21日
11時00分より
“万沢区間”で
事前通行規制
(4時間 通行規制)

○その間、
中部横断自動車道が
代替道路として機能

中部横断自動車道の整備に伴う脆弱なネットワークの解消



「古屋敷」と「万沢」が同時に通行止めになった場合、孤立が懸念される人口

約11,200人

出典：H27国勢調査より算出

「古屋敷」と「万沢」が通行止めになったとしても、中部横断自動車道を利用した迂回が可能

孤立集落の発生を回避

*地域活性化ICとは、地方公共団体が主体となって発意し、整備する追加インターチェンジ

図9 代替路の確保 (並行する国道52号)

4. 新たな取組 (ICT 活用工事等)

国土交通省では、測量・調査から、設計、施工、維持管理に至るまで、建設生産・管理システム全体における3次元データ活用やICT等の新技術の導入によるi-Constructionを加速していくこととしております。甲府河川国道事務所では、「i-Constructionモデル事務所」として、3次元データの活用等を進め、事業プロセスの改善に取り組み、建設生産・管理システム全体の効率化に向けた改善を目指しています。



写真3 切土の現地状況

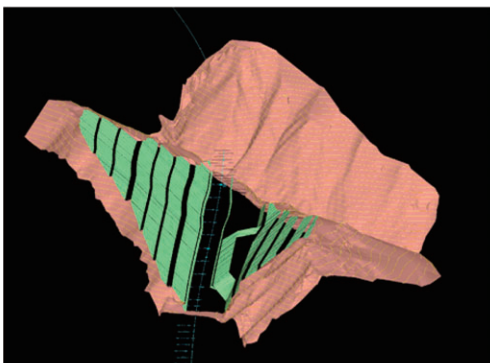


写真4 3D設計データ
(現場のバックホウのシステムにインプット)

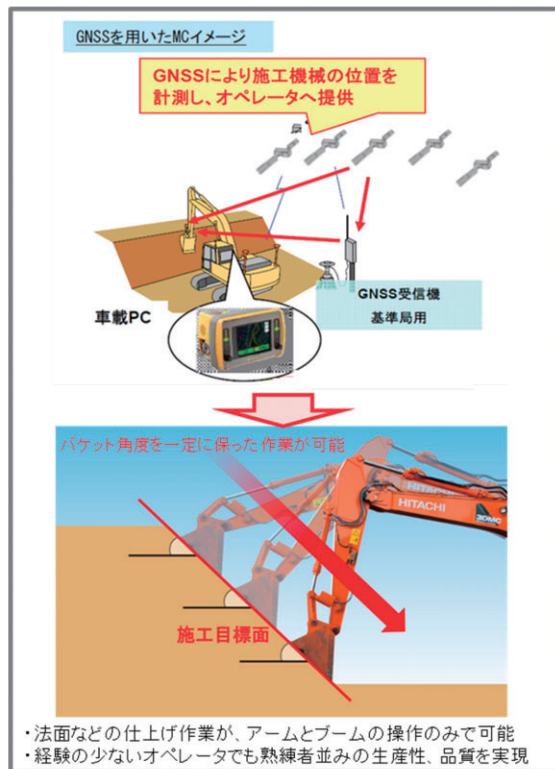


図10 GNSSを用いたマシンコントロール (MC) のイメージ

中部横断自動車道の整備にあたっては、一部切土工事について、人工衛星を用いて位置情報を取得するGNSS（Global Navigation Satellite System）を用い、掘削機械の作業装置を自動制御し施工する3Dマシンコントロール（MC）バックホウを活用することにより、これまで人力で行っていた丁張設置作業が削減できるなど施工の効率化を図ってきています。

5. おわりに

今回の開通により、山梨県内が初めて新東名高速道路と高速ネットワークでつながりました。これにより、静岡県から山梨県の県庁間の所要時間が30分短縮するなどの効果により、観光交流の拡大や、輸送効率向上による企業立地等の産業の活性化が発現しはじめています。引き続き、地域の皆様にご理解とご協力をいただき、地域の活動や取組と連携し、残る事業中区間の富沢IC～下部温泉早川IC間の約20kmについて、安全に留意し、2020年内の順次開通に向けて、整備促進に努めてまいります。また、調査中区間の長坂JCT（仮称）から八千穂高原IC間について、都市計画、環境影響評価の手続きを進めており、一日も早い整備に向け、山梨県、長野県とも連携しながら、必要な調査・検討を進めてまいります。